

事業報告

講座名	環境学習講座「気候変動の影響が身近な樹木に忍び寄る…」		
日時	令和7年11月1日（土）10：20～15：30		
場所	・萩市越ヶ浜介護予防センター ・萩市笠山	参加者数	31人

1 概要

令和3年7月に山口県環境保健センターに開設された「山口県気候変動適応センター」は、気候変動影響・適応の情報収集や発信をしており、昨年度、NPO法人山口県樹木医会と連携して「やまぐちのぶちええ自然が変わる？おしえて、木のお医者さん！」と題した講座を県内4ヶ所で開催した。また、「これって気候変動？みんなで調査！ガイドブック2024～やまぐちの樹木編～」という冊子も作成している。

そこで今回の環境学習講座は、ガイドブック作成に関わった方々を講師に迎え、萩市笠山の風穴等の特殊な環境で温帯と寒帯の植物が共存する貴重な植生を知ることや、気候変動による降水量の変化や異常気象が引き起こす植生への影響を学ぶこととした。

（1）講義「気候変動の影響と適応策について」

講師：山口県気候変動適応センター 専門研究員 元永直耕 氏、恵本 佑 氏

- ・環境問題は誰もが影響を受け、負荷を与えうるもの。地球温暖化は人間活動の影響であり、温室効果ガスの排出量を削減しながら気温上昇を抑える対策が必要となる。
- ・山口県は「2050年カーボンニュートラル宣言」を令和4年12月に表明。温室効果ガス削減のための緩和策と、気候変動の影響に備える適応策を同時に進めることで、脱炭素社会の実現に向けた取組を加速させることとしている。
- ・「やまぐち気候変動適応事例集2024」を発行し、フグやウニ、ミクロ生物への影響、農業、秋吉台の環境、防災活動についての適応策の研究・活動事例を紹介している。
- ・やまぐち気候変動適応情報プラットフォーム（YPLAT）で、山口県に関係する気候変動適応情報をインターネットで収集・発信している。県民は暑さ・雨の降り方などの気候変動に関する気づきや、山口県の開花・生物の発生といったリアルタイム情報を文章や写真で投稿できる。

(2) 講義「気候変動の影響による樹木等の変化について」

①講師：山口県樹木医会 樹木医 中村裕三 氏

- ・これまで防府市の山口県天然記念物「向島の寒桜」や、防府天満宮の参道「とおり松」、山口市徳佐の国指定名称「徳佐八幡宮枝垂桜」、岩国市広瀬「左近桜」のお世話をしている。
- ・樹木医は現在、全国で 3071 人いて山口県は 39 人（うち女性 3 人）、受験資格は 5 年間の実務経験があること。
- ・地球温暖化がもたらす異常気象により樹木が弱ると、昆虫が樹木に産卵、幼虫が内部で過ごし、木が枯れる、倒れる等の被害が生じる。
- ・2023 年に特定外来生物となったツヤハダゴマダラカミキリは、飼育や保管、移動等をするすると罰則がある。見つけたら必ず殺すこと。
- ・樺（ブナ）は冷温地帯を代表する落葉広葉樹で、美しい姿から「森の女王」と言われる。幹に水分が多く、材が柔らかで腐りやすい。平均気温の上昇で、100 年後には 90% のブナ林が消滅し、中国四国九州のブナ林は消滅するとされる。

②講師：山口県樹木医会 樹木医 草野隆司 氏

- ・ハマセンダン（ミカン科）は、萩市須佐のホルンフェルス周辺が自生北限地で、海岸近くでないと見ることができない。南中国や台湾など南方では常緑だが、北浦ではクリスマスから正月にかけて黄色く色づき落葉する。また、近年発見された山陽小野田市竜王山にあるハマセンダンは、日本のハマセンダンの中で最大とされている。
- ・萩市笠山は、温帯と寒帯の植物が共存する特殊な環境である。同じ場所に沖縄県と北海道の植物が生えていたり、北海道の植物と萩市の植物が交配して世界で笠山にしか自生していないシダが生えていたりする。
- ・風穴周辺は真夏でも 12℃くらいで、寒地性の植物が生育できる。しかし温暖化が進むと風穴の役割が果たせず、植生が変化するかもしれない。
- ・明治当初は指月山のような原生林だったと推定される笠山は、その後何度も燃料（薪や炭）として伐採され、生命力の強いヤブツバキが残って群生林となった。
- ・燃料がガスや石油となり、伐採しないままとなった樺群生林は、平成に入って樹木の衰えが目立つようになった。そこで試験伐採をおこない、発芽の状態を確認している。

(3) 観察会

講師：NPO 法人山口県樹木医会 樹木医 草野隆司 氏

午前中の講座で説明のあった樹木等について、草野講師の解説を聞きながら笠山を歩いた。活火山の笠山は石が積み重なった厳しい環境であるが、温帯と寒帯の植物が共存する貴重な場所であること、風穴の周辺では真夏に外気（35℃）と風穴（12℃）の間に霧が立つことで植物の棲み分けがよくわかること、昔は樹木を伐採して牛の放牧地とした歴史があること等の説明があった。

また、ツバキは株の本数の多いほど古い株で、1本の株のものが最後に切られた時のものであることや、試験伐採したツバキが現在どのような状態になっているかの説明もあった。

(4) まとめ

今回の講座は、気候変動が樹木に及ぼす影響について、講義と観察会で学んだ。

山口県の気候変動とその適応策に関する講義は、クイズを交えたわかりやすい解説や、Web サイト・事例集等の紹介により、参加者にとって大変参考になった。また、樹木医による専門的な解説により、県内の貴重な樹木や気候変動による今後の課題がわかった。ツヤハダゴマダラカミキリの標本も見せてもらった。

観察会は残念ながら前日の雨で風穴での確認ができなかったが、笠山の樹木を講師の解説と自分の目で確認することで理解が更に深まり、自然環境の大切さを再確認できた。

<写真（講義）>



元永講師



恵本講師



中村講師



草野講師



クイズに答える参加者

<写真（観察会）>



コウライタチバナの実



椿群生林 試験伐採の場